

C.COM

広島 の 生協

平和とより良き生活のために

SEP.2016
VOL.57

広島県生活協同組合連合会
発行 2016年9月1日



2016 ピースアクション in ヒロシマ

特集：「平和」

特集1：「平和」

2016ピースアクションinヒロシマ 1 - 5

「ヒロシマの心を次世代のあなたへ
～学び、知り、伝える～」

『子ども平和会議』

ナガサキから参加して…

・2016 虹のひろば

・「あの日を語る…」 被爆の証言

切明千枝子さん

特集2

2016 年度通常総会 6

2016 年度 第1回トップセミナー 7

・講師：浜岡政好 佛教大学名誉教授
くらしと協同の研究所研究委員

事務局だより 8

・理事会報告・組織平和委員会報告

・特定商取引法を知ろう⑥

特集3 バスク訪問記② 9・10

モンドラゴン協同組合グループ

高田公喜 記

『日々のことから』 11

プロ野球解説者：山崎隆造 氏

・編集室から

明日の
平和は
私たちで……

特集

2016 ピースアクション in ヒロシマ 『子ども平和会議』

伝えたい。知りたい。

「ヒロシマの心を次世代のあなたへへ学び、知り、伝える」

被爆後 71 年が経過した。そして、被爆者の平均年齢は 80 歳を超えている。そうした中で、被爆者の証言を次世代が受け継ぎ伝承しようという動きが、広島・長崎で年々盛んになってきている。「子ども平和会議」は、未来を担う子どもたちが、自らの住む地域から平和について考えることが出来るようなきっかけとして、昨年初めて日本生活協同組合連合会と広島・長崎両県生協連合会の連携企画としてスタートした。今年 8 月 5 日、全国から 15 生協 121 名の子どもたちが広島に集まった、その子ども平和会議の会場を訪ずれた。

相澤君は、お母さんが生協の組合員で、お祖父さんがお寺の住職さんで人権擁護委員などの役職もかねていることもあって、社会問題や平和のことについて強い関心を持っていたという。それで、お母さんの勧めもあってこの子ども平和会議に参加した。広島に来る前、友達にそのことを話すと、「がんばってこい」と励まされたという。子ども平和会議に参加して相澤君が思ったことは、皆んなそれぞれいろんな考えがあるということだった。とくに、人を思いやる、ということが平和に繋がる、というある人の意見を聞いた時、「そういう考えか」と驚かされた。遠く北海道から平和会議に参加し、いろんな考えを聞き、自分も成長し、それを他人に伝える。相澤君の夏休みは充実したものになった。



相澤 星太郎 君

2016 ピースアクション in ヒロシマ『子ども平和会議』



笑顔で交流する中川碧さん（高1）



司会進行を務める広島議長川岸言統君（中3）



平和学習を聞く子どもたちの様子



グループの報告をする大串千明莉さん（小6）

平和会議で学んだ



会場の様子

話し合い、意見を述べて★いろいろなことを知った。



グループの意見をまとめる子どもたち

ことを皆んなに…。



グループの報告をする大串拓来さん（中2）



アピール文発表・福岡真琴さん（左）と山本梨花さん（右）



アピール文を作成する議長団と大学生



真剣な眼差しの森本柚衣さん（中1）

2016ピースアクションinヒロシマ 子ども平和会議アピール

ヒロシマ・ナガサキに原爆が投下され、戦争が終わって71年が経ちました。71年前には、戦争やたった一発の原子爆弾で多くの人が亡くなりました。私たちは勉強していく中で、今では考えられないことを見たり聞いたりしました。戦争は取り返しがつかない、二度と繰り返してはいけないことだと思いました。被爆者の方の平均年齢も80歳を超えており、戦争を体験された方が少なくなってきています。今では、戦争や原爆のことを知らない人も多くいます。私たちは今日話し合っていく中で、平和はひとりでは築けないことや、周りの人に思いやりを持って関わりあっていくことが大切だと学びました。私たちが学んだことを家族や友人に伝え、平和について一緒に考えていきます。また、今後も平和が続くように共に助け合い、いろんな考えを持つ人や、いろいろな国の人とも手をつなぎ合って、明るい未来を築けるようにしていきます。

2016年8月5日「子ども平和会議」参加者一同

が各テーブルの議事進行を担当
に始まりました。17のテーブル
に6〜8名の児童や学生が席に
着き、進行役（大学生・高校生）
が各テーブルの議事進行を担当

田真帆さんが指名され、議長に
よって子ども平和会議は本格的
に始まりました。17のテーブル
に6〜8名の児童や学生が席に
着き、進行役（大学生・高校生）
が各テーブルの議事進行を担当

島議長川岸言統君と長崎議長太
田真帆さんが指名され、議長に
よって子ども平和会議は本格的
に始まりました。17のテーブル
に6〜8名の児童や学生が席に
着き、進行役（大学生・高校生）
が各テーブルの議事進行を担当

の意見が発表されました。最
後は、それを一つの表明文にま
とめるため、議長、副議長、各
テーブル代表が一つのテーブル
を囲み意見を交わして、声明文
にまとめますが、なかなか時間
がかかりました。まじめに、そし
て真剣に話し合った平和会議、
有意義なものとなりました。

2016年8月5日午前10時
開会を宣言する司会者の言葉で、
『2016子ども平和会議』が、
広島県立総合体育館大会議室で
スタートしました。日本各地か
ら集まった未来を担う子どもた
ちが、「平和について考える一つ
のきっかけに」という趣旨で催
されたこの子ども平和会議。自
主的に平和について関心を持ち
平和について考え話し合ってみ
たいという前向きな子どもが集
まった広い会議室の17のテーブ
ルは、熱気に包まれています。

お互いに話し合うことは、も
ちろん平和についてです。進行
役の問題提起や質問によって、
それぞれのテーブルについてた子
どもたちの口から様々な意見が
飛び出します。約1時間、それ
ぞれのテーブルで話し合いがも
たれ、その結果を代表が発表し
ます。一人で、あるいは二人で、
多い組は3人で立ち上がって助
け合いながら自分達のまとめを
発表していき、17のグループ全
ての意見が発表されました。最
後は、それを一つの表明文にま
とめるため、議長、副議長、各
テーブル代表が一つのテーブル
を囲み意見を交わして、声明文
にまとめますが、なかなか時間
がかかりました。まじめに、そし
て真剣に話し合った平和会議、
有意義なものとなりました。

2016 ピースアクション in ヒロシマ『子ども平和会議』



生活協同組合 ララコープ
金田 真里 理事

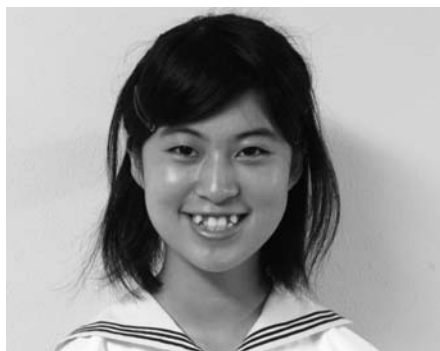
自分が住んでいる地域の 人たちの話をしっかり聞くこと

家族で鹿児島県の知覧に行ったとき、戦争の愚かさ、平和の大切さを知りました。開聞岳の上に広がる青空、この空を自分の子どもと同じ年齢の若者が特攻隊として出撃して行ったのかと思うと、心が痛み、平和について深く考えました。また、被爆者の話を聞いて、自分が被爆2世だとあらためて痛感しました。家庭では、子どもたちが大きくなり戦争や平和について語れることは少なくなったのですが、主人が戦争についての本を良く読むので、そうした話は日常します。

ヒロシマの「子ども平和会議」に参加したのは、今の子ども達が「平和」をどう考えているのか知りたかったから。私は、広島と長崎を比較することはなかったのですが、ヒロシマは平和について「動」のイメージがあり、「生」という感覚の激しさを感じます。

世界から戦争や争いを無くすにはどうしたらいいか。よく考えますが、継承に力を入れ、声を出すことも大事ですが、自分が住んでいる地域の人たちの話をしっかり聞いておくことが大切だと思います。地域とつながりを持ち、戦争とは何かを知り、伝えることだと思います。

オバマ大統領が被爆地広島を訪問したことは有意義だったと思います。大統領が自ら折って贈ってくれた折り鶴がケースを飛び出して、自由に飛び日が来ればいいなあ、と思います。長崎では、生協に行く途中に、父が被爆して治療を受けた小学校、山越えをした道があります。今は、道は整備され、子どもの歓声が日々こだましています。この平和が続くことをいつも願っています。



ナガサキから参加して…
太田 真帆 さん

学んで知って考えて、 それだけで 終わらせてはいけない。

私の通っていた学校山里中学校は、校区内に原爆資料館や平和公園、原爆落下中心碑などがあり、ほぼ爆心地という位置にあります。私は学校で、毎月9日、「平和を学べる日」を経験し、「被爆遺構巡り」を何回もしました。そして、被爆者の話を聞く度に、「このままだと何も変わらないな」と思い、高校に進級時、「学んで知って考えて、それだけで終わらせてはいけない」と平和活動に参加しました。

私の家は、母方の祖父母の母が被爆者、祖父の父は戦時中ソ連と満州にいたこともあり、戦争と平和についてよく話します。祖父は「他国を毛嫌いせず、何処の国でも良かけん、友達ばいっばい作りなさい」と言っています。

『子ども平和会議』には、「長崎のことも知ってほしい!」という思いと、「よその県の人たちはどう考えているか」を知りたかったので参加しました。広島というところは、平和を語る上で絶対に訪れるべき場所だと思っているからです。参加後は、「伝える」、「行動する」ことがとても大切だと思います。知ったこと感じたことを、他県の人、何も知らない世代に伝えて、日本全体で結束して訴えれば、誰かが、どこかの国の人、いつか認めてくれると信じています。

オバマ大統領の広島訪問は、本当に嬉しいことでした。しかし、形だけのスピーチや謝罪に思えて、広島・長崎、また日本中の人々にとって、心に響く何かが足りなかったような気がします。でも、オバマ大統領が長崎に来て、何かが変わるなら是非来てほしいです。



ナガサキから参加して…
福留 真琴 さん

周りの人たちと “理解し合う”ことが 大事だと思います。

私は、これまで平和に関心がなかったわけではないのですが、行動することはありませんでした。その私が変わったきっかけは、中2の頃、街中で見かけた「1万人署名活動」でした。戦争を全く経験していない学生たちが、「核廃絶」を呼びかけている姿に心を動かされ、関心を持ったのが平和活動に参加したきっかけです。

「ピースアクション in ヒロシマ」に参加した動機は、昨年参加した先輩の話を聞いたことからです。平和活動に興味があった私は、子どもだけが話し合う場で、たくさんの人たちとさまざまな意見を共有したいと思ったからです。

日頃は、家庭で、食事の時や親戚が集まった時など、平和や戦争について話し合うことがあります。世界から、戦争や争いをなくするためには、身近な周りの人たちと“理解し合う”ことがまず大事だと思います。「戦争や争いをなくしたい」とただ口にするだけでなく、過去にあった歴史（戦争）や出来事を知る事が必要だと思っています。

アメリカのオバマ大統領の広島訪問は、核保有国の大統領が実際に被爆地を訪れ、展示写真などを見て原爆の被害を知り、「被爆者」に寄り添う姿は、たくさんの方が強い印象を持ったと思います。このことが核廃絶につながるかと言われたら、まだ具体的でないから「はい」とは言えないけど、“大きな一歩”だと感じています。

2016 ピースアクション in ヒロシマ『虹のひろば』

8月5日午後1時10分、日本生協連・広島県生協連主催の『ヒロシマ虹のひろば』が開催されました。会場の広島県立総合体育館（グリーンアリーナ）は、北は北海道、南は沖縄県から集まった約1千2百名の参加者で埋まり、厳かで熱い空気で満ちています。

オープニングでは、広島文教女子大学附属高校和太鼓部の「文教太鼓 葵」の演奏が会場の空気を震わせます。続いて、司会者の紹介で松井一實広島市長、主催者の日本生協連から和田寿昭専務理事の挨拶がありました。

次に、日本被団協60周年の取組報告として代表委員の岩佐幹三さんが講演を行いました。続いて若者からのメッセージとして、広島県立福山工業高校、広島市立基町高校、近畿大学附属広島高等学校、中学校東広島校の生徒の活動状況も紹介されました。

みんなのひろばでは、書道パフォーマンスに大勢の人が詰めかけ、全国各地の生協の展示ブースが連なり、人々の笑顔の交流の輪が広がります。そして、日本被団協「ヒロシマ・ナガサキ原爆と人間」パネル展、広島県立福山工業高校作成「被爆直後の広島市内の復元映像」上映、広島市立基町高校「原爆の絵」、近大付属「原爆ドーム」爪楊枝アートが展示・公開され終日熱い空気に包まれました。

平和を希求し核兵器廃絶のために集う



挨拶する日本生協連 和田寿昭専務理事



挨拶を述べる松井一實広島市長



参加者全員で1分間の黙祷



オープニングは和太鼓の演奏から



「原爆の絵」を描いた基町高校の生徒



爪楊枝アート



「原爆ドーム」を作成した近畿大学附属の高校生



日本被団協 60 周年の取組報告をする岩佐幹三さん



平和をイメージした「書」にチャレンジ!!



書き上がった書道作品（書道パフォーマンス）



安田女子大学書道学科の大書パフォーマンス



CG で原爆投下前後を復元した福山工業高校生



参加生協ブース（コープおきなわ）



参加生協ブース（生協ひろしま）



基町高校「原爆の絵」展示会場



『ヒロシマ・ナガサキ原爆と人間』展示会場



合唱で締めくくられる「虹のひろば」



「子ども平和会議」のアピール文発表



折り鶴昇華再生事業の解体体験コーナー



参加生協ブース（ララコープ）

2016 ピースアクション in ヒロシマ 『被爆の証言』

▼
被爆の証言

きりあけ
切明
ちえこ
千枝子
さん

切明千枝子さんは、今年86歳になります。8月6日午前10時30分、「じっくり聞く被爆の証言」の会場は30名近い聴

知
っ
て
ほ
し
い
…
○

至った歴史と経緯を詳しく説明し、最後に原爆が投下された時の惨状を冷静に話します、86歳の高齢とは思えない証言内容の正確さは聞く人の心を強く引きつけて行きます。



8月6日、被爆の証言をする切明千枝子さん

閃光、私を包む空間は全て真っ白に、次に襲った爆風によって私は地面に叩き付けられ気絶しました。しばらくして気がつくと、身体は倉庫の下敷きに。必死に這い出て見ると、辺りは真っ暗、渡ろうとした橋の向こうは火の海です。1945年8月6日、広島に原爆が投下されたとき、私は、紙一重の差で命を長らえました。あの日、学徒動員先の広島専売局工場勤務中2時間の休暇をとって、関節炎治療のために工場の西1.5kmの外科病院に行く途中、比治山橋東詰めで被爆。そのとき私は、流れる汗を拭き一息ついて橋を渡ろうと思い、近くの木造倉庫の建物の軒下に入った途端に原爆が炸裂したのです。大勢の傷ついた人達が橋の向こうから叫び声や悲鳴を上げながら逃げてきます。建物疎開の作業中だった中学生や女学生が、衣服に火がついて燃えながら次から次へと眼の前を通り過ぎて行きました。地面に折り重なる数知れない死体、全身に大やけどを負って苦悶の叫びを上げる人、荷馬車が転倒し馬が象のように膨らんでもがいている、まさに地獄絵図です。今でもその光景を忘れることは出来ません。

運が良かったのは、原爆が爆発する瞬間私は建物の軒下において、熱線を直接浴びなかったことです。頭いっぱい爆風に飛び散ったガラスの破片が突き刺さってはいましたが、火傷を負うことはなかったのです。しかし、放射能を浴びたせいでしょう、秋からその年が終わる頃まで、頭髮が抜け、身体に紫斑が出、血便や高熱に苦しみ、死の世界をさ迷いました。しかし、両

●プロフィール

1929年（昭和4年）11月生まれ（86歳）。1945年8月6日、県立広島第二高等女学校4年生（15歳）時に学徒動員で広島地方専売局のたばこ工場に勤務。当日、病氣治療のため、病院に行く途中比治山橋東詰で被爆、爆風による傷を負い、死に直面する後遺症にも悩まされるが、無事回復。戦後、広島女専を卒業し県教育委員会に勤務。その後、被爆者である夫と結婚、夫の創業した出版社を手伝いながら2児を育て上げ、現在に至る。

親の必死の看病で、その危機も乗り越えることが出来たのです。

しかし、私はあれだけの惨劇を目にし、死の苦しみを体験したのに、原爆の恐ろしさ、悲惨さを他の人に語ることはしませんでした。できなかったのです。

1975年(昭和50年)、「ヒロシマ・ナガサキの修学旅行を手伝う会」を主催された江口保先生に出会うことによって、私のその考えも変わりました。そのときは、江口先生の「修学旅行生に証言してほしい」という申し出を断ったものの、あの時に見た地獄の光景、そして、必死で行なった全身火傷の下級生達の看護、薬もなく医者もいない中で次々と死んでいった少女たち、あの人達のが心がから離れることはありませんでした。やがて私は、「下級生達の悲惨な死を後世に語り継ぐために生かされたのでは…」と思うようになり、1980年(昭和55年)頃から、機会ある毎に被爆の証言をさせて載っています。

今年5月28日、広島に原爆を投下した当事国アメリカのオバマ大統領が、初めて広島を訪れました。この歴史的出来事に対して世論はいろいろでした。しかし、アメリカ大統領が初めて広島を訪問したのです。被爆者としては実に複雑な気持ちですが、世界がヒロシマに眼を向けてくれたことは確かです。これを一つの節目に、私もこれまで以上に、被爆について語り続け核兵器廃絶に向けて歩んで行くつもりです。

(7月15日、切明さん宅にて取材)

※江口 保 (えぐち たもつ)

1928年(昭和3年)～1998年(平成10年)。長崎県長崎市出身、長崎市への原爆投下による被爆者の一人。公立中学校で教員として勤務していた時代に、被災地である広島県の修学旅行を実現させ、平和学習としての修学旅行の先駆けとなった。退職後も単身で広島に住み、日本全国の学校から広島や長崎への修学旅行を助力し、平和運動に貢献。

(出典：フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』)

2016 年度 通常総会



祝辞を述べる森永智絵広島県環境県民局長

地域の諸団体との
連携を強め、
豊かで住みやすい
地域社会の形成、
暮らしを総合的に
支える生協づくり
をめざします。



開会の挨拶をする岡村会長理事



祝辞を述べる JA 広島中央会小田政治常務理事



2016 年度通常総会会場



報告を行う高田専務理事

総会成立確認後、まず総会の、議長・書記の選出が行われ、選出された議長、書記がそれぞれの席に着席しました。具体的な議事の前に、主催者を代表して岡村信秀広島県生協連会長理事が挨拶。続いて、来賓を代表して広島県環境県民局長森永智絵氏、JA広島中央会から小田政治常務理事の二人が祝辞を述べ



議案説明・活動報告を映像を交えて行う高田専務理事

る6月22日（水）、午後1時、広島国際ホテルにおいて、2016年度広島県生協連通常総会、第1回トップセミナーが開催されました。

横山常務理事司会の開会宣言とともに、総会の資格審査が行われ、この会が総会成立規則条件を満たしていることが確認され、具体的に総会がスタートしました。

2016年度通常総会

べられた後、来賓4人が紹介され、来賓の方々が退場。その後、2016年度通常総会議事が進められて行きました。

今年度の総会の議案は、

第1号議案 2015年度活動報告ならびに決算報告承認と剰余金処分案承認の件
第2号議案 2016年度活動方針ならびに収支予算案決定の件
第3号議案 役員補充選任の件
第4号議案 役員選任規約の一部改訂の件
第5号議案 役員報酬決定の件の5つの案件です。

この案件内容については、事前に発言への通告がなされ、広島中央保健生協、生協ひろしま、広島大学消費生協、広島医療生協の代表から、それぞれに関わ

りのある発表がなされました。それに加えて、広島県生協連高田公喜専務理事より補足説明があり、出席者の理解を深めました。

議案の説明が終わり、議長によつて各議事の賛否が問われ、全ての議案が承認されました。

2016年度通常総会の最後は、理事の門田陽子さんによる「議案決議（案）」の提案によつて締めくくられ、1時間45分にわたる2016年度通常総会は閉幕しました。



議案決議（案）を読み上げる門田理事

総会決議（案）

東日本大震災から5年が経過し、広島土砂災害から2年がとうとうとしています。また本年4月には熊本地震が発生し、一瞬にして甚大な被害と多くの犠牲をもたらしました。これらの大震災災害は私たちに改めて自助・共助の大切さと行政の迅速な対応を提示しています。防災・減災への日常的な準備、地域の中での人と人とのつながりや助け合い、さらには復旧・復興に向けての生活支援制度の拡充が不可欠です。

さて、日本はモノは豊かになり生活は便利になりましたが、国連の幸福度調査によると世界第53位と報告されています。来年に予定されている消費税増税は再延期される議論がおこなわれていますが、社会保障負担増加などにより、私たちの暮らしは一層厳しさを増すと考えられます。さらには、TPP やエネルギー問題など暮らしに直結する課題も山積しており、生活者の視点で注視していく必要があります。

今年は被爆71年をむかえます。4月にG7外相会合が広島で開催され、また、5月の米国オバマ大統領の広島訪問は歴史的な出来事です。被爆者の高齢化は進み、「あの悲惨な惨劇を二度と繰り返してはいけぬ、誰にも同じ思いをさせてはいけぬ」この言葉は被爆者の切なる願いです。被爆者の思いをしっかりと受け止め、次世代へ継承し、核兵器廃絶に向けて、行政や市民団体と連携して市民レベルでの世論形成を進めることが大切です。安保関連法案も国民の過半数が反対したにも関わらず成立し、戦争への不安がつのります。引き続き、法案の改定を求めていきたいと思っています。

私たちの住む地域社会は、人口減少と人口移動により、地域コミュニティの継続が困難な状況が続いています。人と人との「ふれあい」「助け合い」「分かち合い」を強めながら、生協の理念である「誰もが安心してくらせる持続可能な地域コミュニティの再生」をめざしたいと思っています。今からの時代は、生協から地域を見るのではなく、地域の中の生協として、生協の持っている資源を最大活用して、地域への貢献をしていくことが大切です。

広島県生協連は、来年創立50周年を迎えます。「歴史に学び、未来をつくる」をテーマに、県内の生協間協同連帯、連携をさらに強め、以下、決議します。

1. 私たちは、地域の中の生協として、会員生協の連帯を強めるとともに、地域の諸団体と連携して豊かで住みやすい地域社会の形成に取り組みます。
1. 私たちは、ポスト被爆70年の今年、被爆者の思いを大切に、核兵器廃絶に向けた取り組みを行政や市民団体と連携して推進します。
1. 私たちは、消費税増税や食の安全安心、TPP問題等、組合員の暮らしを守るために、事業の持続性と組合員活動を活発化し、暮らしを総合的に支える生協づくりを目指します。

2016年6月22日

広島県生活協同組合連合会
2016年度通常総会

2016 年度 第1回トップセミナー

浜岡政好氏プロフィール

【略歴】

1942年、中国・「満州」丹東市生まれ。中央大学大学院文学研究科社会学専攻博士課程修了。佛教大学社会学部で労働調査、地域調査に携わる。西陣地域調査、トヨタ調査など。1980年代から生協組合員の消費生活調査や自治体と共同での高齢者調査。阪神淡路大震災後は仮設住宅居住者の生活実態調査及び島根県西部の中山間地域での高齢過疎地域調査に取り組む。

2013年の大学退職後は、くらしと協同の研究所などで生協の組合員、職員の調査に関わりながら、京都生協、ヘルスコープおおさかななどの理事に就き、これまで以上に生協にコミット。

大学を退職した後、私はくらしと協同の研究所などで、生協の組合員・職員の調査に関わりながら、生協にコミットしています。

そこでの研究では、2025年問題がクローズアップされています。医療生協などでは、地域包括ケアをどうするか、といったことが取りざたされていて、介護が必要である高齢者

ことで、脇に置かれていたところが有りました。ところが、2025年問題が迫りくる今日では、生協の幹部は、「福祉は特別な位置にある」と考え始めています。姫路医療生協などは、「医療はなかなか難しい」と考える中で、ケアの問題に主題をおき、副次的な仕事として「地域包括ケア」の実現を具体化しています。包括ケアの「地域化」

まず、・地域の生活インフラとしての生協の超高齢化社会仕様へのバージョンアップ、・「困りごと」解決の担い手づくりの力量アップ、・地域のセーフティネットとしての生協の力量アップ、・生協職員の力量アップ、といったことが上げられます。その上で、職員が「地域」を知る事の重要性に気づくべきです。また、福祉事業の質を担

としての地域の多様性、③生協の多様性、こうした多様性を発揮した取り組みでないと全ての人々が「安心してくらし続けることのできるまち」は実現できません。「暮らしとまちづくりの標準モデル」はありません。現在、広島県生協連で進めている実践事例。それが、「安心してくらし続けられるまちづくり」の具体化なのです。



『生協の事業と地域との関わり―超高齢化社会における暮らしとまちづくりと生活協同組合』

講演要約

今日は、生協の中でも大きな力を持っている「購買生協」が、これからの社会の中でどういう役割を果たして行くのか、というのをテーマにお話しさせていただきます。

2025年問題と社会環境変化

がどうすれば安心して過ごせるか、どうすれば安定した生活が可能か、ということが大きなテーマになっています。

これまでの考えと取り組み

実際に、これまでの生協、現在の生協を見てみますと、福祉は事業的に厳しいという

が求められているのです。

日生協においても、生協の福祉ビジョンの4つの視点、①生協の特色を生かした総合的なサポート力の発揮、②地域ネットワーク強化による地域福祉づくり、③組合員・地域住民が主人公となった新たな協同のあり方、参加の場づくり、④生協としての社会的役割発揮、というものが掲げられています。

そして、その到達点として、

保する担い手づくり、購買生協における福祉系職員の位置づけもとても大切です。

「多様な接近」の重要性

地域では、平均値では図ることが出来ません。様々な事情があり、人と人との交流、そして住民が主体意識として考えることが地域活性化を考える要となります。①組合員・地域住民の暮らしの多様性、②暮らしの場



トップセミナー会場

理事会報告 組織平和委員会報告 特定商取引法を知ろう⑥

第1回理事会報告

第1回理事会議事録

開催日 7月7日

■場所 広島県生協連3階会議室

■出席 理事17名中14名出席
監事2名中0名出席(出席理事) 岡村、高田、難波、
盛谷、岡野、横山、岡、吉山、
武田、近江、金築、乃美、戸田、
門田

■議決事項

以下の項目について資料に基づき提案説明を行い、全員異議なく承認決定した。

1. 2016年度通常総会開催報告

2. 2017年(平成29年)広島県への要請事項(案)について

3. 広島県生協連50周年企画(案)の進め方について

4. 広島県生協大会実施要項(案)について

(第2号議案)
常務理事会専決事項1. 他団体の公職承認の件
(1) 広島県食育推進会議委員

(2) 広島県森林整備・農業振興財団理事

(3) 広島県農業関係施策検討会議委員

(4) 広島県環境県民局補助金等審査会委員

2. 2016年度専門員制度(コープ・アドバイザー)の選任について

3. 他団体の協賛・協力について
(1) 協同労働組事例発表会
「地域の声を事業にする」への名義後援について
(2) 広島県労協会長杯「第10回親睦ビーチボールバレー大会」広告協賛について

■報告事項

各事項について資料に基づき説明を行い、全事項について確認した。

(第3号議案) 一般活動報告

1. 2016ピースアクションinヒロシマ企画について

2. 熊本地方地震支援活動について

3. 生協の共同事業化について(中間報告)

4. トップケーススタディ研修企画(1次案)について

5. 2016年度第1回トップセミナー報告

6. 監査研修会報告

7. 2016年度自治体の新地域支援事業キックオフ学習会報告

8. 2016市民平和行進案内

9. 2016戦争も核兵器もない平和な世界を市民の集い報告

10. 各委員会活動報告(審議会、組織委員会、福祉・介護委員会等)

11. 平和の折り鶴昇華再生事業支援協議会報告

12. 第32回中四国生協・行政合同会議について

13. けんこうチャレンジ2016実行委員会報告

14. 「ピースグラント2016」助成申請について

15. 2016年度広島県生協連機関会議委員名簿

第2回組織平和委員会報告

第2回組織平和委員会議事録

開催日時 6月10日

■場所 広島県生協連3階会議室

■出席 檀浦(高校生協)、越智(日立造船因島)、田中(広島中央保健)、山根(広島医療生協)、豊村(労済生協)、上田、草野(ひろしま)、高田、福島、為政(広島県生協連)、大同(日本生協連)

■報告・協議事項

1. 消費者意識調査報告について

2. 2016年度平和の取り組みについて

(1) 2016ピースアクションinヒロシマについて

(2) 2016市民平和行進について

3. 2017年度(平成29年度)広島県への要請について

4. 2016「戦争も核兵器もない平和な世界を」市民の集い報告

5. 2016年度通常総会の運営・役割・スケジュールについて(最終案)

6. けんこうチャレンジ2016の取り組みについて

7. わが家の電力・ガス料金しらべ調査について(中間報告)

8. 熊本地方地震支援活動報告(中間報告)

9. ピースグラント2016助成申請について

10. 2016年度第1回福祉・介護委員会報告書

11. モンドラゴン協同組合

ループとゲルニカ・ルモ市(スペイン) 視察報告

消費者ネット広島

特定商取引法を知ろう⑥

『業務提供誘因販売取引について』

業務提供誘因販売取引とは、「仕事を提供するので収入が得られる」という口実で消費者を誘引し、仕事に必要であるとして、商品等をもって金銭負担を負わせる取引のこと、いわゆる「内職商法」です。

消費者は、それを購入すれば仕事を提供してもらえると期待して契約しますが、ほとんどの場合には、期待しただけの仕事はもらえず、購入した商品などの支払いの負担だけが残りま

す。事業者が消費者に対して正確な情報を与えていないことや、実際よりも誇張された広告内容に問題があるといえます。

業務提供誘因販売取引を行う事業者が守らなければならない主な規制には、「氏名、勧誘目的等の明示義務」「書面の交付義務」「不当な勧誘行為の禁止」「虚偽・誇大な広告の禁止」等があります。

契約書面を受け取った日から数えて20日間以内であれば、書

面によりクーリング・オフができます。

また、勧誘に際して業者に事実と違うことを告げられ、その内容が事実であると信じて契約した場合や、故意に事実を告げられなかったために契約をした場合は、契約を取り消すことができます。

申込のきつかけは、折り込みチラシの広告、電話勧誘、インターネットで「在宅ワーク」を探して資料請求をした、などが多く、「未経験でも稼げる」「自宅で楽に副収入」といったような甘い誘い文句には注意が必要です。

契約する前に、仕事の内容や、仕事をあつせんする条件、報酬の条件等をしつかり確認しましょう。仕事につくためには高額な機材や教材の購入が必要だ、というところは要注意です。このような勧誘には気を付けてください。

(文責 宗山隆幸事務局長)

特集

スペイン・バスク訪問記②



モンドラゴン協同組合グループの本部を訪問した時の写真(ジョン・アンダー・ムサエル 左から4人目)



「大学は、人材を創出する使命があり、仕事(協同組合)は人を育てます。そして、人を尊重する社会づくりを……。」

モンドラゴン協同組合とそのグループ

モンドラゴン大学
ビルバオキャンパス

1956年、ギプスコア県モンドラゴンの町に協同組合が設立された。その起源は、1943年バスク人であるカトリック聖職者ホセ・マリア・アリスマンディアリエタ氏が開設した小さな技術系学校にさかのぼる。その源流を引き継いでいるのがモンドラゴン大学である。

モンドラゴン大学には、4つの学部があり約4,000名の学生が在籍している。学部の一つに、約500名の学生が協同組合や会社を起業し、環境、観光、イベント企画、公共サービスなどの事業を実際に立ち上げ運営、起業家を育成するユニークなコースがある。このコースは、レイン(LEIN)と呼ばれる。その卒業生の一人にジョン・アンダー・ムサエルがいる。私たちの今回のバスク訪問は、彼との関わりを抜きにしては考えられない。彼が大学の授業の一環として、旅を通じ

て様々なことを学び、国際的な起業家をめざしていた学生時代に広島を訪問したことが直接のきっかけとなった。

起業家をめざす若者たち「次世代のキャンパスづくり」

LEIN・ジュニア協同組合「Go Big」の創立者イラティアレヒタさん(女性・MTA3年生)に、レインコースの話を聞くことができた。

イラティさんは、ワインや食品などを海外へ販売する会社を共同経営している。

「貴女は、なぜこのコースを選んだのか?」とイラティさんに問うと、彼女は、「これまでの大学は、先生(教授)から学びだけの詰め込み式の授業であり、実践的で自分自身の考えが活かされるこのコースに魅力を感じました」という答え。また、「この起業(家)コースでは、協同組合の『一人一票』の原則が生きている。起業する学生グループで知識をシェアしながら、個人の自立心を養い、協

同して挑戦できることが魅力だ」と語る。

レイン・コースでは現在、ビルバオ市が所有するビルを賃借し、「次世代のキャンパスを創ろう」と12の起業グループ、180名の学生が学んでいる。このキャンパスでは、これまでの座学を「受ける」から「自ら考え行動し、働きながら起業(ビジネス経営)を学ぶ」を実践しており、卒業後も学生時代に携わった仕事(労働)を通じて、将来の地域を支える人材として社会に貢献することをめざしている。

「では、先生(教授)たちはどういう役割をしているのか」という疑問が湧いてきた。そのことを、ランデル学部長に伺うと、「アドバイスはするが、どう行動し、何を起業するかは学生自身が考えます。何故なら、この起業(家)コースは、実在の会社や協同組合を立ち上げ、自らが出資・運営し、一般企業同様の成功を収めなければ卒業できないのです」という答

スペイン・バスク訪問記② (2016年5月)



モンドラゴン大学の学生たちとディスカッション



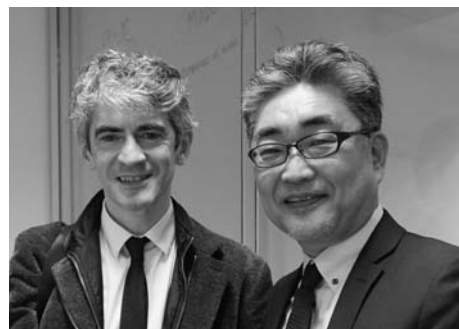
モンドラゴン大学ビルバオキャンパス



イラディアレヒタさん MTA 3年生 (左から3番目)



ビルバオ市街



モンドラゴン大学ランデル学部長 (左) と高田 (右)

え。さらに、ランデル学部長は、「大学は、地域の雇用を生み出し、若い人材を社会に創出する使命も重要視している」と。学部長のその言葉で、モンドラゴン大学の『次世代のキャンパスづくり』という命題が理解できた。モンドラゴン協同組合グループ創立者ホセ・マリア・アリスメンディアリエタ氏が説いた「仕事は人を育てる、そして人間を尊重できる社会づくりをめざす」という高い理念が、このキャンパスの息吹として感じ取れた。

モンドラゴン協同組合の豊かさの方程式

モンドラゴン協同組合グループ広報・国際部長アンデル・エチェベリアさんは、私たちの訪問に際し、創立者ホセ・マリア・アリスメンディアリエタ氏の創業理念と行動力のことを最初に語ってくれた。「彼の人生は、人間を尊敬し、人を助ける生涯で、常に労働＝仕事をしていました。そして、連帯（地域づくりのこと）を考へ、教育と共有を通じて地域を豊かにする価値を説きました」。

モンドラゴン協同組合グループは、103の協同組合の中に、工業協同組合、生活協同組合（小売りエロスキなど）、農業協同組合（トマト、牛肉の生産など）、信用協同組合（ラオラクチャ）がある。そして、大学と7つの

学校と15の技術研究所などが協同組合としてグループ化されている。

元来、スペインでは、労働＝仕事は、ネガティブにとらえられていて、ホセ・マリア・アリスメンディアリエタ氏が提唱した当初、ほとんどの人が彼の言うことを理解しようとしなかった。1936年～1939年のスペイン内戦後、スペイン国内はすざましい混乱期で、貧富の差は大きく、教育はなおざりにされていた。だが、少しずつ実践（労働＝仕事）を通じて地域を豊かにし、教育と共有化することによって人間的な成長をするという信念は広がっていった。そして、その考えに同調する5人の起業家たちによってモンドラゴン協同組合は創立され発展していったのである。

時代背景は異なるものの、日本でも同じように、戦後の混乱期に賀川豊彦（1888年～1960年）が、現代風に言うところ「地域のコミュニティ再生に向けて」さまざまな社会運動を起し、「協同組合は一つである」と唱えた。協同組合は、「有機的に一体で存在する」と協同組合理解を広めたのである。賀川豊彦が言う友愛の精神の教えがモンドラゴンの創立者ホセ・マリア・アリスメンディアリエタ氏の考えと重っているように思える。

個人の豊かさは、社会を豊かにして実現する。協同組合を通じて得た利益（富）は、社会に分配するという考え方は、協同組合が持つ組合員の一人一票制の原則によって今でも運営されている。約9万人の組合員は、1万50000€（約185万円）を出資する。ここでは組合員＝労働者であり、全員が経営者でもある。無論新しく加入した組合員でも理事や経営に携わることができる。そして、そうした経営を学ぶ研修センターがある。かつては、組合員＝労働者の賃金格差は、1:3だったが、現在は、1:6に広がったという。それでも一般企業からすれば格差は小さい。

資本（家）の論理では、収益（富）の一極集中が原則である。収益（富）を奪い合い生き残っていくこと。1:100を超える事例は、この新自由主義の世の中では多くみられる。こうした世の中において、収益（富）を分配し、分かち合う論理が、高い生産性と生産技術力の高さを生み出し、さらに人の豊かさにつながっているという方程式は、あらためて新鮮に思えた。

その発展のルーツに、起業（家）を支援・育成し、可能性を大事するモンドラゴン協同組合の真髓があるように思える。

バスク訪問記執筆 高田公喜
広島県生活協同組合会専務理事



高校球児の汗と涙の戦い、 広島東洋カープの激戦に想う。

●プロフィール

1958年4月15日生まれ、広島県出身。1976年、崇徳高校3年時1番遊撃手として春の選抜に出場し優勝。その年のドラフトで1位指名され広島東洋カープに入団（在籍1977～1993）。入団後は、選手生命の危機に陥るほどの大けがを克服して、3年連続3割、ベストナイン3度、ゴールデングラブ賞4度、26試合連続安打を記録するなど、「赤ヘル野球」の黄金時代を支えた。1993年シーズン終了後に現役引退し、その後はコーチ、二軍監督を経て、2001年から一軍守備走塁コーチ、後2006年から二軍監督を務め2011年辞任。現在は中国放送（RCC）野球解説者。

日々のことから

プロ野球解説者

山崎 隆造

やまさき りゅうどう

広島が好きだから：

広島東洋カープの激戦が、ひろしまを興奮の渦にし、その中で夏の高校野球の県予選が始まった。日々繰り広げられる球児達の熱闘を見ていると、自分の高校時代が甦ってくる。

1976年、高校3年時、1番打者、遊撃手として春の選抜に出場し、決勝で小山高校を降して優勝。その年の夏の甲子園にも県予選を勝ち抜いて甲子園に行くが、残念ながら長崎海星に破れて3回戦で敗退した。振り返ってみると、自分達の崇徳高校は、広島県では甲子園出場

の常連校ではなかった。不思議なことに、自分たちが優勝した年は、どういうわけか、超高校級のピッチャーや選手の粒が揃ったのだ。一つの幸運である。

私にとつての幸運は、甲子園出場によって続いた。その年のドラフトで、同僚の超高校級ピッチャーが、地元カープのドラフト1位指名がならず、自分に広島東洋カープの1位指名が回ってきたのである。私自身、超高校級遊撃手（笑）として騒がれたにもかかわらず、地元カープ以外には行きたくなかった。広島が好きだったのだ。これも一つの縁かも知れない。

プロの厳しさ
ドラフト1位指名とはいえ、

プロの世界に入ってみて驚いたのは、プロとの力量の差だった。高校時代「厳しい」と思っていた練習でも何とかなえられ怪我をすることはなかったのだが、プロの練習では、すぐに足や膝を痛めたのである。それだけ練習が激しかった。プロの世界の厳しさを身を以て体験したのである。

黄金時代のカープに入団できたのは一つの幸運だが、レギュラーとして活躍できたのは、真面目さと自分の「臆病」さだったと思う。途中、選手生命も危ぶまれた大怪我もしたが、何とかその世界で生き残って来れたのは、自分自身のそこで満足できない「慎重さ」だと思っている。プロである限り、レギュラーとして出場するのは当たり前で、「もつともつと良くなるうー」と苦しい練習の中で努力を続けられたのは、「恐れ」がもたらす向上心と努力だった。

指導者になって

選手時代は、優勝5回を経験出来るという幸運もあった。が、現役を引退して、コーチ・二軍監督になってみると、自分を取り巻く環境は全く違ったものになった。二軍選手というのは、プロの厳しい競争からこぼれた若者だ。今日では、プロ野球が隆盛で、ドラフト指名されて入

団してくる若者達は、どちらかというと「もてはやされて」入団して来る。しかし、忽ちプロの洗礼を受けて、「自信」というのを失っている人が多い。また、大人としても未熟だ。その若者達に、「ここがゴールではない。スタートなんだ」と言い聞かせて、上を見させるのだ。「練習で出来ても、ゲームで出来なければ駄目」、「人を見る眼を養いなさい」、「挙げ句の果てには、礼儀を重んじ、挨拶をしなさい」ということまで言う。それでも、一流と二流に分かれて行ってしまう厳しい世界だ。

人生での出会い

私の取り柄は「生真面目」だと思っている。そして、出会いに恵まれた。カープに入れたことも、そして野球一筋にやって来れたのも一つの幸運だった。今、カープは「25年ぶりの優勝！」とファンはボルテージを上げているが、その優勝を5回も経験できたのだから。

もう一つの幸運は、人との出会いだ。高校の野球仲間との出会い、プロの世界で古葉監督と出会えたことは、その後の自分の人生を決めた。野球だけでなく、「プロとは、人生とは、人間とは」、その総てが、自分の糧になった。願わくば、これからも良き出会いを…。

【編集室から】

オバマ米大統領の広島訪問、夏の高校野球県予選・甲子園大会、被爆71年目の平和記念式典、その総てが終わった。まさに、朱熹の詩「偶成」の転・結句の、「未だ覚えず池塘春草の夢、階前の梧葉已に秋声」、秋はそこに…。▼リオ・オリンピックも終幕を迎えた8月19日、妻と一緒に大阪から帰省した孫二人（中一女子小4男子）と「平和教育」と称して平和記念資料館を訪れた。夏休み、オバマ効果のせいなのか、館内は大混雑。当初、孫二人は「原爆」という言葉に多少の不安を覚えたのか、資料館訪問に気乗り薄かった。が、驚いたことに二人とも1時間近く館内をぶさに見て回ったのである。孫二人の姿に、ピースアクションinヒロシマの「子ども平和会議」に参加した子どもたちの姿が重なる▼戦争と核兵器と平和のことを、「見たい・知りたい・伝えたい」と、日本全国から集まった121名の子どもの熱いまなざし。自ら進んで、ヒロシマ・ナガサキのことを知ろうとする心は、尊い。この子どもたちの心が、未来の平和を引き寄せてくれるものと確信した夏休みだった。（Y）

平和とよりよき生活をめざして

広島県生活協同組合連合会

〒730-0802 広島市中区本川町 2-6-11
第7ウエノヤビル 5F
TEL 082-532-1300 FAX 082-232-8100
E-mail: kenren.h@proof.ocn.ne.jp
URL: http://hiroshima.kenren-coop.jp